

経済・金融フラッシュ

No.07-053 2007/08/08

7月マネー関連～2カ月連続法人向けマイナス

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

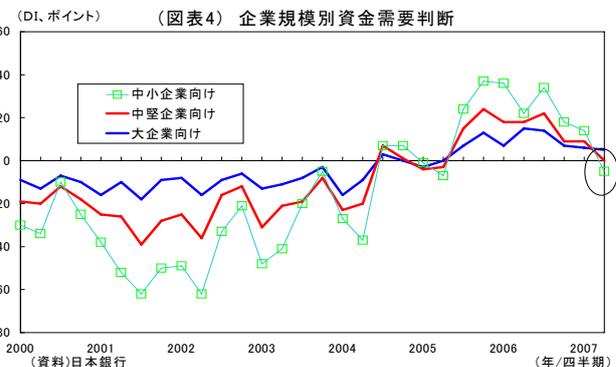
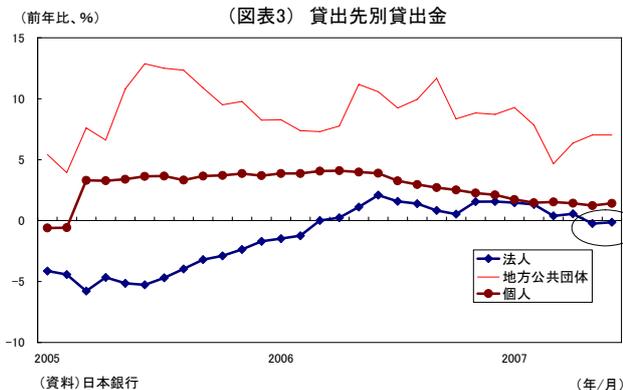
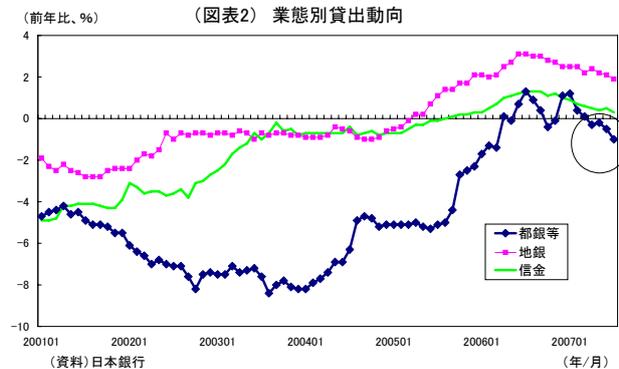
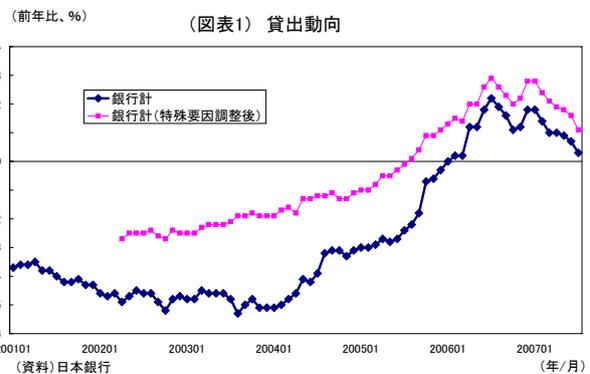
TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：貸出低迷が鮮明に

日本銀行が8月8日に公表した貸出・資金吸収動向等によると、7月の総貸出（平残、銀行・信金計）は前年比0.3%と18カ月連続のプラスとなった。ただし、伸び率は1月以降明確に鈍化している（図表1）。

業態別には、地銀（同1.9%）が比較的堅調を維持しているが、都銀等（同▲1.0%）は4カ月連続で前年比マイナスとなっている（図表2）。

貸出先別貸出金（7/31日公表、6月分）を見ると、法人向け貸出は5月▲0.2%、6月▲0.1%と2カ月連続でマイナスとなっている（図表3）。四半期1回の主要銀行貸出アンケート調査（7/24日公表）でも、中小企業の需要判断がマイナスに転じており、しばらく要注意と言えそうだ（図表4）。



2. マネーサプライ、マネタリーベース

マネーサプライ統計（8/8 日公表）によれば、7月のM2+CDは前年比2.0%と3ヶ月連続伸び率が高まっている（図表5）。

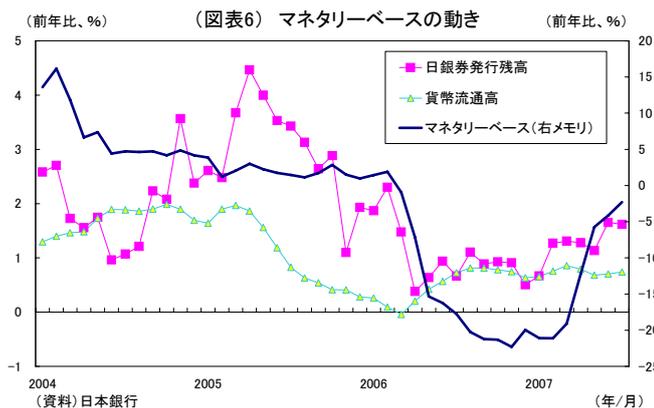
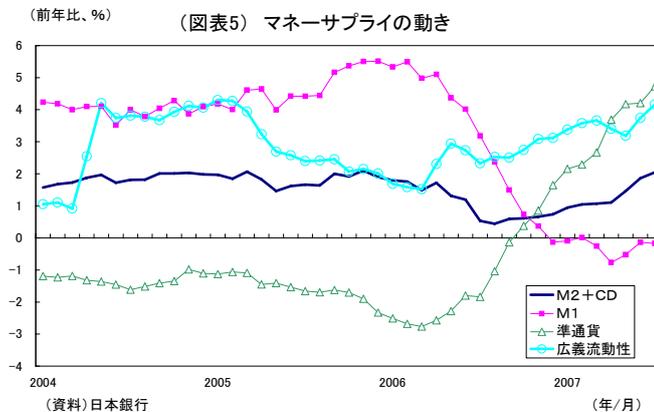
普通預金から定期預金へのシフトが継続。M1が伸び悩む（同▲0.2%）一方で、定期預金を含む準通貨は同4.7%と高い伸びとなった。

また広義流動性は、投資信託などの高い伸びから、M2+CDよりも高い前年比4.2%となっている。

7月分マネタリーベース（8/2日公表）は、前年比▲2.3%と17ヶ月連続でマイナスが続いているが、マイナス幅は縮小してきている。（図表6）。

量的金融緩和解除（07年2月）から1年半が経過しているが、そろそろマネタリーベースのプラスが展望できる状況になってきた。

当座預金残高はマイナス（7月：前年比▲27.5%）だが、日銀券発行残高：1.6%、貨幣流通高：0.7%は比較的安定した動きとなっている。



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)